

平成 25 年度 事業報告

社会福祉法人真正会本部事業報告

運営

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日まで開地保育園の運営を行った。

平成 26 年 5 月 12 日開所「デイサービスいろは」に向け準備を行った。

社会福祉法人 真正会 開地保育園

1. 総括

(1) 施設 平成 25 年 4 月 1 日より 25 年度保育開始

入所は、入所者当初より決定しそれによる、運営費により運営を行った。

入所者は当初より定員以上いたので、それに伴い、施設の整備、特別保育事業等実施し、充実した運営を行った。

2. 年間児童 乳児 33 名 1～2 歳児 178 名 3 歳児 144 名 以上児 444 名 計 797 名

3. 職種職員数

常勤 園長 1 名 副園長 1 名 保育士 10 名 調理（栄養士）2 名 事務員 1

非常勤 保育士 4 名 嘱託医 2 名

バス運転手 1 名

4. 勤務態勢

保育時間は原則 11 時間とするが、保育延長を希望する家庭のため、午前 7 時 15 分より午後 7 時 15 分で開園し保育した。

開園は日曜、国民の休日、年末年始の特定日とした。

年間保育日数 292 日（大雪の為 2 月 1 7 日 1 8 日都留市より休園命令）

職員の勤務は週 40 時間を原則とし、延長保育等対処の勤務割り当ては、月勤務割り当てにより実施する。

5. 年間保育・行事等

- 1) 園児の保育は年度当初作成された年間保育計画に基づき、3 歳児以上児を 3 グループに分けてたてわり保育を実施、必要に応じて年齢別保育を実施した。また、森の保育園、農業体験、体育遊び・英語教室を中心に行なった。

2) 特別保育事業

延長保育推進事業、保育所地域活動事業、障害児推進事業、地域子育て支援センター事業、一時保育促進事業を行った。

園行事の中で、地域のお年寄りとの交流、小・中・高校との異年齢児交流を行った。

3) 森の保育園を整備したことにより自然にふれあいながら、体力作りを行った。

6. 安全管理

1) 園舎の管理

園舎の保安全管理には十分注意し、園児の安全を期し諸器具等の点検、危険の除去に配慮した。遊具点検は事業委託契約と毎日の保育士の点検をおこなった。

2) 備品の管理

備品、設備機材の維持に全職員が分担して維持、管理を行った。

3) 防災安全管理及び警備

災害に対し安全を期し、平素避難訓練、交通安全の指導、盗難火災の通報等警備会社に依頼し実施した。

4) 衛生管理

帳面・毎月身体測定・健康診断などを行い、日々の様子を保護者との連絡を密に取った。

5) 給食管理

調理器具等の扱い、保管、衛生に十分に注意し食中毒には最大の意を払い調理を行った。また扱者の健康検査等定期に行い防止予防を行った。

7. 保育の運営管理

園児に関する保育上の内容等は月定例の職員会議によりその内容が検討され又行事の実施内容が策定され職員間意思の疎通が計られている。

8. 研修

各研修には特別の事がない限り参加した。

各自研修はもとより、若い保育士を中心に研修会に参加しフィードバック研修会を開いた。特に運動遊び、森の保育園、野菜作り、軽度発達障害児の保育など力を入れ行った

理念ブックを基本とし、自分たちの保育を振り返り各自の目標を毎日立

てる事を行った。

9. 整備内容

未満児室のエアコン設置・事務室パソコンの購入

10. 対外関係

園と保護者の連携をとり、共に育てるということで研修会等行い、諸行事にも保護者と協力して行った。

地域の老人たちと交流する機会が多くとれた。小学校、中学校、高校との交流も行った。

地域交流の一環としてオープンキャンパスを行なった。保育園の開放などを行い様々世代の方と交流や保護者をはじめ園児を取り巻く様々な方に園の理解をしていただいた。

保護者会活動として、森の保育園を安全に運営するために整備活動を行った。

11. 子育て支援センター事業（センター型）

地域の子育て支援の拠点となりよう運営を行った。

利用総数 3348 人（保護者 1435 人 子ども 1913 人）

開所日数 241 日（2 月 1 7 日 1 8 日大雪の為都留市より休園命令の為休み）

開地保育園支援センター

利用曜日は月～金曜日（週 5 日）8：30～13：30 開所した

年間計画に沿って育児相談、育児支援、親支援を行った。また、他の場所に出向いての出前保育や市や社会福祉協議会が主催する行事の補助なども行った。

サテライト子育て支援センター

利用曜日月・水・金曜日 10：00～13：00 駅近くに開所した。サテライト子育て支援センターは 0 歳から 1 歳のお子さんを中心に利用していただいた。特に親支援を中心に行い、絵本の読み聞かせ、母親へのストレッチ教室、子どもの発達についてなど行った。

12. 一時預かり事業

利用総数 302 件

利用者の主な理由は緊急に家庭で見られない、育児に疲れた親のリフレッシュなどが主な理由であった。平成 25 年度は、年度途中保育士の人数不足により、一時預かりが自主事業となった。

